

5年「総合的な学習の時間」教育課程研究協議会

2日（火）、松塩筑地区小中学校より40名ほどの参会者を迎えて、5年生の授業に学ばせていただく標記研究会が催されました。

子どもたちが今、自分のやりたいこと、やるべきことに生き生きと取り組む姿、自分たちの活動に自信や誇りをもって活動する姿、素直なつぶやきや表情の明るさ、それらが今日までの田んぼで過ごした貴重な体験の積み重ねに裏付けられているであろうことを感じ取っての、多くの温かいご意見をいただきました。出会ってからまだ半年しか経っていない、子どもたちと担任の先生の関係のよさについても、驚きの声があがっていました。本校に勤務されていた小澤智子校長先生、下條寿嗣校長先生も、子どもたちの成長ぶりや、麻績の子たちの熱心さを大いに喜んでいただきました。【感想より抜粋】



調理グループの子どもたちを見ました。におい、味、舌ざわり…本当に五官を使って自分たちのお米を味わっていたと思います。炊いた状態からすぐに「もちにしたい」と、はして「まぜまぜ」と練ったり、ラップと綿棒を持ち出してついでに試してみたりと、味だけでなく、どのように（収穫祭に）出すかをよく考えて、自分たちで試行錯誤しながら動いていたと思います。振り返りで先生が、「実は（わたしも炊いたお米を）食べたんだ」と言ったとき、周りの子たちが「いいなあ」と言い、それに対して「まだ、あるよ」と言う子どもの姿から、自分たちのレシピで炊いたお米を食べてもらいたいという気持ちが伝わってきました。

わら細工のMさんの姿を見せていただきました。一人ひとり黙々と仕事をしていたので一人でわらを結んでいるうちに何度も折れてしまい、できあがったときに「できた。…折れた。…やばい」とできを心配していました。まとめでは、担任の先生に「想いがあったんだね」と言われた瞬間、顔が輝き、自分の想いを語っていた姿がとても印象的でした。

わたしたち教師にとって、授業に学ばせていただく、子どもの姿から学ば

せていただくことはとても貴重で、大切な研鑽の機会です。しかし、他校の先生方に麻績小で大切にしてきたことや子どものあゆみを、できるだけ分かっていたいただいたうえで、子どもたちに出会ってほしいと願うと、そのための準備が容易ではないのです。そして何より一番嬉しいのは、そんな子どもたちのありのままが、「いい学びの姿だね」「素敵な追究だね」と認めていただけることなのです。まさに、そんな授業を見せていただきました。

6年「租税教室」

松本税務署から広報広聴官の小澤英理様、麻績村税務係長二見様を講師にお招きして、6年生の「税に関する」授業がありました。わたしたちが納めた税金がどのような流れで国のお金として使われるようになるのかを学んだり、日本の納税総額二十一兆円をイメージしたりしながら、学習を深めていきました。



国民の義務ではありますが、「人を大切にする」ための納税であるという意識を高めてもらえる授業でありました。間もなく修学旅行を迎える6年生。国会議事堂の見学が、きっと一層深い学びとなることと期待しています。

「村民運動会」「北部吹奏楽祭」に向けて



7日(日)「村民運動会」の「いまどきの子は！！リレー」のために、「昔の遊びの会」の皆様が来校して練習の時間を設けてくださいました。

8日(月)「北部吹奏楽祭」に向けて、練習を重ねてきた金管バンドの皆さんも、練習

の仕上げに取り組んでいます。

秋はやはり、子どもたちの活躍の場が盛りだくさんです。ここまでの成果を十分に発揮できるよう、期待しています。田んぼ仕事も、脱穀が大忙しかと思います。それでも、子どもたちのがんばりを是非とも応援してあげてくださいませ。わたしも楽しみです。

